拓北・あいの里地区社協ミニ通信

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

拓北・あいの里地区社会福祉協議会
会長：渡邉　寛　　広報部長：森下　満

No 72　　令和5年 4月 10日

3月8日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。

3月13日(月)より、マスク着用は各自の判断に委ねられましたが、皆さんどうされていますか？

▌総務部より ▌

・福まち電話相談事例集作成プロジェクトの経過

２月１７日(金)と３月１日(水)の２回、６名のメンバーで打合せをおこない、北区社協から提供された北白石地区の相談事例集を参考にさせていただく、当番は現在１人体制だが不安感を和らげるため２人以上の体制にする、連町・民児協・地域団体からも参加協力いただきたい、当番を担当する方に研修的な機会を設けてあげる期間が必要、これ迄にもあった応急対応が必要なケースに対しボランティア活動体制（メンバー）が必要、地域の情報共有の機会として町内会長と担当民生委員の顔合わせの場等を設けていただきたい、等の意見が出されました。

▌ふれあい交流部より ▌

・３月９日（木）のひまわりクラブは地区センター和室に１組２名の親子さんがいらっしゃいました。右の写真のように、お子さんが畳の和室で走り回るなど、楽しく過ごしていただけたと思います。

・次回は４月13日（木）10：00～11：30、地区センター和室にて開催予定です。

畳の和室で走り回るお子さん。

▌地域ケア部より ▌

・２月例会は、21日(火)18:30-20:00、ゲストに共同生活援助事業所ライフサポート・札幌館夜勤専従職員の高崎正則（たかさき・まさのり）さんをお招きし、「障がいをもって地域で生きるということ」～障がい者グループホームの現場からレポート～について学びました。参加者は15名。「この子らを　世の光に」、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、もっと輝いてほしいという、子どもたちの可能性を見出した信念をもち、戦後日本の障がい者福祉を切り開いた第一人者として知られ、「社会福祉の父」とも呼ばれる糸賀一雄（いとが・かずお、1914-1968年）の紹介から始まりました。社会福祉法人小樽高島福祉会は、小樽市に本部があり、小樽市手宮、高島を中心に障がい福祉サービスを展開し、札幌市あいの里では就労継続支援B型事業所とグループホーム２軒を運営しています。この障がい者グループホームには、20代から60代の男性７名と30代から50代の女性４名が入居し、互いに助け合って暮らしています。事業所には９時に出勤し、15時まで労働しています。グループホーム利用者の生計は、障害基礎年金と事業所の工賃の収入から成り立っていますが、受注の確保と工賃向上が課題です。その後、障がい者への虐待の事例が紹介され、虐待をなくすには、地域に開放された法人運営及び当事者に伴走する支援が必要であるとし、知的障がいのある方々が暮らし続けるためには、地域で活動されているみなさんの理解が必要不可欠である、と締めくくられました。

社会福祉法人 小樽高島福祉会 共同生活援助事業所ライフサポート・札幌館と隣接する障がい者就労継続支援 B 型事業所生き活きワークセンター。（あいの里２条２丁目 1-2。）

◇次回例会のご案内◇

４月例会は18日(火)18:30-20:00、「年間計画打合せ会」をテーマに、参加者のみなさんと議論を交わす予定です。地域ケア部員、ケア施設町内会員にはメーリングリストでZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメールhasepy55@gmail.comでお問合せ下さい。

▌ボランティア企画部より ▌

・町内のみなさまにお届けしました「困ったときは先ずここに！」、いくつかの利用事例があり、電話相談を受けました。これからも長きにわたり、ご活用ください。なお、もしお手元に届いていない場合、まちづくりセンター前のラックにありますので、ご自由にお持ち帰りください。また、福まち電話相談日（月・水・金の10時～12時）に行きますともらえます。
今後の課題として、相談に対応する生活支援のボランティア活動体制の構築があげられます。